

自治体職員が、継続的な自治の担い手となる住民を発掘し、共に地域活性化に取り組むためのヒントが得られる一冊！

自治体職員のための 住民と共につくる 自治のかたち

相川 俊英 著

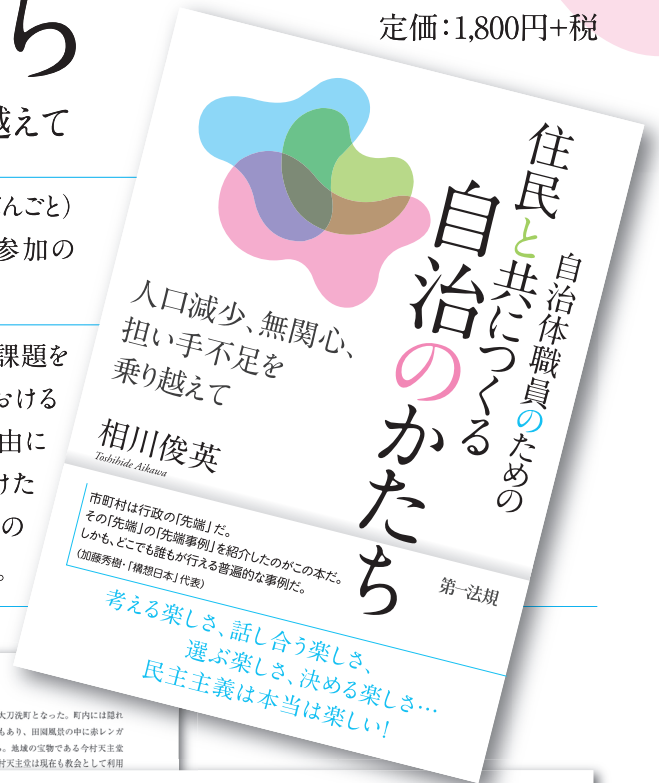
A5判・208頁

定価：1,800円+税

人口減少、無関心、担い手不足を乗り越えて

自治の担い手をどう再生するか。どうすれば、自分事(じぶんごと)としてまちづくりにかかわる住民を増やせるのか。住民参加の先進自治体の工夫、よこび、失敗を追う。

無作為抽出で選ばれた住民が「自分事」として行政の課題を話し合う「住民協議会」、外国人が多く住む地域における自治会を通じた外国人との共生、本会議で市民が自由にスピーチできるフリースピーチ制度、投票率向上に向けた公開討論会の様子等、各地の先進的事例。関係者への丹念な取材により、悩み・葛藤を経た現在の姿をルポする。



1 担い手を生み出す秘策は無作為抽出 ～福岡県大刀洗町～



◎無作為抽出の住民協議会、発祥の町

福岡市内の西鉄福岡(天神)駅から大牟田線の電車で乗り、宮の陣駅へと向かう。40分ほど駅に到着すると、ここで甘木線の電車に乗り換える。いかにモラルな線といった風情の甘木線は単線、2両編成だ。電車がどかな田舎地帯をトコトコゆっくり走る約30分、6つの駅を通過し、電率は目的地である天来駅のホームに静かに降り込む。小さな無人の駅舎を出て踏切を渡り、広々としたコンビニの駐車場を越え、目の前に大刀洗町庁舎が現れた。駅から歩いて1分もかからない好位置にあった。

福岡県の中東部にある大刀洗町は、筑後平野の中に広がる農業の町。地域内を西日本鉄道(西鉄)や甘木鉄道の電車が走り、高速道路の入り口も近くにあるなど、交通アクセスの良さを誇っている。近年は隣接する久留米市のベッドタウンとして注目を浴び、若い世代の転入の多きが際立つ。人口は1万7,613人、世帯数は15,263に上る(いずれも2016年12月末時点)。ちなみに財政力指数は1.43(2013年から2015年)で、経常収支比率は79%(2015年度)。健全な財政運営を続ける小規模自治体といえる。

大刀洗町の歴史は古く、町名の由来も南北朝時代にまで遡る。当時の武将「南無武光」が合戦の際に川で刀を落したという故事から、「大刀洗」という地名がついたという。昭和の大合併(1955年)時に大刀洗

町と大野村、本郷村の3村が合併し、大刀洗町となった。町内には隠れキリシタンが信仰を継いだという地区もあり、田園風景の中に赤レンガの古い教会が静かにたたずんでいる。地域の宝物である今村天主堂だ。1913(大正2)年に建造された今村天主堂は現在も教会として利用

3 地域の担い手を育み、 支え、増やす若者議会 ～愛知県新城市～



◎消滅可能性都市・新城市の起死回生策

東海道新幹線を急須駅で下車し、JR原田線の特急「ワイドビュー伊勢路号」に乗り換えた。東京方面が長く中を走来した伊勢路号はほどなくして、山あいへと入っていく。車窓の眺めは緑あふれる田園風景に一変し、揺られると約25分。特急電車が2つの停車場と終極駅に到着した。

小さな新城市を出て、町中をふらふら歩いて取材先まで向かうことにした。日曜(2018年4月22日)の午前中で、駅前周辺は歩行者天国となっていた。路上に商品棚を積んだトラックがズラリと並び、それぞれさまざまな買い物客でにぎわっていた。人混みを縫うようにして取材先である新城市文化会館を目指した。途中、何度も行き交う人に道を尋ねてのことだった。

愛知県の南東部、奥三河の玄関口に位置する新城市は、「長壽、益壽、賢のい」の地として知られる。江戸時代は豊川の舟運と伊那街道の宿場町として栄えた。広大な市域を誇り、愛知県内では豊田市に次ぐ。もっとも、その8割が森林である。一方、人口は減少傾向が続く。現在、4万7,084人(2018年4月1日時点)。隣接した豊川市などへの通勤が止まらず、年に500人規模で減り続けてきたという。このため、新城市は2014年に民間の研究機関が発表した「消滅可能性都市」に愛知県内の市として唯一、挙げられていた。市全体が大きな衝撃を受けた

は、いうまでもない。

そんな山あいの小さな地方都市が手取り状態始めた取組に、今、全国の自治体から高い関心が注がれている。新城市が2015年にスタートさせた「若者議会」である。2018年第4期となる新城市の若者議会は、自治の担い手を育む画期的な取組として高く評価されている。

第4期若者議会の開会日(5月2日)前に準備会なるものが開かれることを知り、会場となった新城市文化会館に向かった。若者議会の新しいメンバーが初顔合わせをする場であると同時に、若者議会の仕組みや運営、委員としての役割などを改めて確認しようものだ。文化会館に選んで到着し、いざ急ぎ切った会場の扉を開けると、広い部屋は若い男女がいろいろ喋っている。後ろを振り返ると、早くも早くも早割られてしまった。また、会場を包む空気は静かだった。つまり緊張感で盛り上がるのにならぬと思っていたら、これが大間違い。スワーツ姿はほとんどなく、カジュアルな格好の人ばかりで、背、服装も和やかだった。部屋のそこそこから笑い声が漏れくるなど、最高潮と化した。行政の企画の企画にありがちな重さや緊張はほとんどなく、部屋の中は活気が溢らあふれていた。

大会議室に大きな人の輪が生まれ、自己紹介が始まった。若者議会委員や市の担当職員など40人ほどいたため、それぞれ1時間を行った。自己紹介が終わると、床にブルーシートが広げられ仲良く昼食となった。午後はグループごとに分かれて歩き、それも若者議会の先駆者たちの提案で実施された事業の見学である。若者議会初日に全員がひとずつ所任表明する場となる市議会の議場も見学された。メンバー全員が見学を終えて会議室に戻る、ワークショップに移った。その進行役となる市の職員ではなく、若者議会委員をサポートするメンバー市民が行った。第3期から連続してメンバー市民の奮闘とみとんで、実行手慣れた進行ぶりだった。ワークショップは「様々な意見から新城市へ

2 編集 塩田あやむ

174 第4期 若者の力が出発点

3 地域の担い手を育み、支え、増やす若者議会



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
https://www.daiichihoki.co.jp

Tel.0120-203-694
Fax.0120-302-640

はじめに

第1章 住民力を磨く

1 担い手を生み出す秘策は無作為抽出 ～福岡県大刀洗町～

Interview.1 安丸国勝さん(大刀洗町長)に聞く

Interview.2 古賀そのみさん(住民協議会OG)に聞く

2 外国籍住民が自治を担う時代に ～愛知県西尾市～

Interview.1 川部國弘さん(外国人との共生を考える会・会長)に聞く

Interview.2 金子ヨシタカさん(外国人防災ボランティア)に聞く

その後…出入国管理法改正後の西尾市を再訪

3 住民の概念を広げ、自治力を強化する“ふるさと住民票”の取組 ～香川県三木町～

Interview 筒井敏行さん(三木町長)に聞く

その後…東京で開かれた三木町ふるさと住民会議

第2章 議会を変革する

1 市民フリースピーチ制度で自治を再生 ～愛知県犬山市～

Interview ビアンキ・アンソニーさん(犬山市議会議長)に聞く

2 議会が無作為抽出型の住民協議会を主催する ～岡山県新庄村～

Interview 磯田博基さん(新庄村議会議長)に聞く

その後…村議選後も開催継続される

3 多様な人たちによる議会に ～茨城県取手市～

Interview.1 池田慈さん(取手市議会女性議員特別委員会委員長)に聞く

Interview.2 岩崎弘宜さん(取手市議会事務局局長補佐)に聞く

第3章 選挙を活性化させる

1 投票率向上に立ち上がった若者と子育て世代 ～千葉県市川市・松戸市～

Interview.1 石川紗樹さん(「若者とママの投票率向上委員会 in 市川」共同代表)に聞く

Interview.2 土岐金成さん(「DIO選挙プロジェクトまつど」代表)に聞く

その後…「せんきょcampまつど2018」と「市民選管・松戸」

2 地方選前に住民の手で公開討論会の開催を! ～東京都小平市・千葉県流山市・神奈川県大磯町～

Interview.1 内田豊さん(一般社団法人「リンカーン・フォーラム」代表理事)に聞く

Interview.2 森野やよいさん(「政治・知りたい、確かめ隊」代表)に聞く

その後…2019年3月に開催された小平市民主催の「公開演説会」を訪ねて

3 地方選挙を活性化させる小さな村のユニークな取組 ～長野県木島平村～

第4章 若者の力を引き出す

1 投票率8割を超すスウェーデンと日本の違いとは ～スウェーデン～

Interview 両角達平さん(文教大学生生活科学研究所研究員)に聞く

2 議会が中学生とコラボして主権者教育を実践 ～茨城県取手市～

3 地域の担い手を育み、支え、増やす若者議会 ～愛知県新城市～

Interview.1 穂積亮次さん(新城市長)に聞く

Interview.2 竹下修平さん(新城市議(若者議会の初代議長))に聞く

おわりに

詳細・お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

CLICK!

